

(7)昭和61年の防除上特に注意を要する病害虫

中央農業試験場 病虫部

この成績は昭和60年に各農試一農業改良普及所及び病害虫防除所が実施した予察事業ならびに試験研究の結果から主要病害虫の発生状況と新発生病害虫を概括し、更に61年の防除上特に注意を要する病害虫について取りまとめたものである。

昭和60年の主要病害虫発生状況(平年対比、病害虫の種類数で示す)

作物	少発生		並発生		多発生		作物	少発生		並発生		多発生	
	病害	虫害	病害	虫害	病害	虫害		病害	虫害	病害	虫害	病害	虫害
水稻	11	7	1	1	1	4	てん菜	5	3	3	3	1	1
麦類	13	4	0	0	2	3	リンゴ	6	3	0	2	1	1
とうもろこし	2	1	2	2	0	2	そさい類	31	11	18	15	13	15
豆類	20	5	4	7	1	9	牧草	15	2	2	1	0	0
馬鈴しょ	5	1	2	4	4	1	計	108	38	32	34	23	36

昭和60年に新たに発生または命名された病害虫

馬鈴しょ 象皮病類似(亀の甲)症(新発生)Streptomyccs属一種(十勝農試);昭和52年、清水町で初発見。いもの皮目を中心に褐変、亀甲状に割れる。高温、少雨で多発。主に土壤伝染。

ネギ シラフヒョウタンゾウムシ(新奇主)Meotiorhynchus

タマネギ 萎黄病(新発生)マイコプラズマ一種(北農試病2研);昭和59年、札幌で初発生。若い葉が黄白変、展開葉にカスリ状の槌槪荘点を生じる。媒介昆虫はヒメフタテンヨコバイ。

ニンジン うどんこ病(新発生)Erysiphae heraclei de Condone(道南農試);昭和60年9月、函館市で発生。葉が白粉で被われ、次第に黄化する。昭和57年9月、札幌でも発生。

キャベツ モザイク病(新発生)カブモザイクウイルスTuMV(北農試病2研);昭和59年8月、函館市で発生。褪緑斑を伴なうモザイク状斑が生じ、外葉には黒褐色のえそ斑紋を示す。

キュウリ・メロン ケナガコナダニ(新寄主)Tyrophagus putrescetiae(中央農試);昭和57年4月、共和町のメロン苗に、昭和58年5月、栗沢町のキュウリ苗に発生。生育不良、奇形化。

メロン ばらいろかび病(新発生)Trjchothecium roseum Link(上川農試);昭和60年8月、旭川市で収穫期の果実の花痕部を中心に軟腐し、紅橙色のかびを生じた。露地栽培に多い傾向。

カボチャ ケナガコナダニ属の一種(新奇主)Tyrophagus similis(中央農試);昭和60年5月、札幌市の無加温育苗ハウスで発生。木葉力神びず、著しい奇形となる。普通ハウレンソウ

に発生。

カボチャ ・キュウ リ	ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(新発生)ZYMV(北農試病2研);昭和58～59年、渡島、桧山のウリ類から分離。性質はカボチャモザイクウイルス(WMV)に似るがウリ類に激しいモザイク症状や奇形を生じる。
イチゴ	クルミネグサレセンチュウ(新奇主)Pratylenchus vulns Allen&Jensen(中央農試);昭和60年、増毛町の連作ハウスで発生。春の草勢衰え根は黒褐変腐敗。生長点が凋れて枯死。
ウド	萎凋病(新発生)Verticillium dahliae Klebahn(道南農試);昭和60年9月、上磯町で発生。下葉から黄変し、茎に褐色条斑ができ、やがて落葉して立枯れる。
マッシュ ルーム	ヒナダニ科一種(新発生)Pygmephoridae(中央農試);昭和60年2月、鷹栖町で発生。菌糸の生育を害し減収する。体長0.2mm～0.31mmのダニ。
スミズ ブROOM グラス	立枯病(新発生)Gaeumannomyces graminis var.tritici(北見農試・北農試牧3研・根釧農試);昭和59年9月、根釧農試で発生。根や地際の葉鞘が黒変し、下葉の先から黄化。草丈、茎数が減少する。
アルファ ルファ	黒あし病(新発生)Cylindrocladium floridanum(北農試牧3研);昭和60年7月、長沼町で確認。地際の茎が黒褐変してくびれ、全体が黄化して凋れる。
センキュ ウ	黒色根腐病(新称)Phoma属一種(北見農試);従来から北見地方のセンキュウに発生していたもので、根茎が腐敗し、時に空洞化する。葉は黄化して生育が劣り、枯死、欠株となる。

昭和61年の防除上特に注意を要する病害虫

作物名	病害虫名	昭和60年度の発生		昭和61年度の防除上の 注意事項または要点
		概評	主要因または知見	
水稻	褐条病	多	循環式ハトムネ催芽機の温水中で増菌して2次汚染を助長	催芽にカスガマイシン剤を適用。
	縞葉枯病	多	前年の好天で媒介昆虫ヒメトビウンカの越冬保毒虫密度が高く、今春の高温で活動が早まった。本虫は本年も異常多発生。	媒介幼虫防除の徹底。病株の早期抜取り処分。
	イネクビボソ ハムシ	やや 多	4月後半の高温で越冬成虫が早発、夏期前半の低温経過で成幼虫の活動延長。一部地点で薬剤抵抗性個体群出現。	上川、空知、胆振など抵抗性個体群確認地点とその周辺ではPAP剤PHC剤の使用を一時停止。早期防除。
	ヒメトビウン カ	異常 多発	前年の多発生で越冬幼虫密度が高く本年7月後半から8月末の高温、多照、少雨で異常増殖。排泄物に糸状菌が寄生して稲体の煤汚染発生吸汁により品質低下。	畦畔での越冬幼虫密度、本田での発生動向の把握。畦畔、苗床、本田、路傍など総合的、地域ぐるみの防除対策。

小麦	眼紋病	多	3～4年以上の連作ほで発生。	輪作、発生ほ場産麦稈等の完熟堆肥化または消却。
小豆	立枯病	多	水田転換連作ほで発生拡大。	輪作の励行。
馬鈴しょ	ウイルス病	多	前年の好天で媒介昆虫アブラムシ類が多発生、種いもの保毒率増加。本年も媒介昆虫が多発生。	無毒種いもの使用。病株の早期抜取処分。土壌施薬、茎葉散布など媒介昆虫の防除徹底。
	ワタアブラムシ	多	7月後半以降の高温、多照、少雨が増殖に好適。(Yウイルスの媒介昆虫)	下葉に寄生が多いので薬液は十分量を散布。薬剤の選択に注意。
ダイコン・ハクサイ	モザイク病	多	年間3～4期栽培のため発病源が常時存在。7月下旬から9月上旬の高浪、多照、少雨で媒介昆虫アブラムシ類多発生。	病株の早期抜取り処分。媒介昆虫防除の徹底。ほ場周辺の保毒雑草の除去。直播ではマルチ栽培。耐病性品種利用。
リンゴ	ハマキムシ類	多	前年、本年の春期干ばつ傾向で幼虫の歩止まり良好。マメコバチの利用増加で適期防除に支障。	剪定時の卵塊除去。マメコバチ利用園では開花前は低毒性殺虫剤を用い、落花後や夏期の防除を徹底。

[目次へ戻る](#)